

甲状腺

新陳代謝を担うホルモンを分泌する場所。

甲状腺疾患の患者は大多数が女性。

のどぼとけの下にある甲状腺は、

新陳代謝を活発にするホルモンを分泌しています。

甲状腺の病気は男性よりも女性がかかりやすい病気の代表例。

漠然とした不調や疲れと思っていたら、実は甲状腺の病気だったということもあるので、気になる場合は内科・内分泌科へ。



甲状腺のしくみ

のどぼとけの骨よりやや下の方にある小さな臓器。蝶のような形で、外から触っても分かりにくい。

気になるときは検査を 甲状腺疾患や リウマチは 血液検査でわかる！

甲状腺に異常がある場合は、甲状腺ホルモンの血液中の濃度が変化します。過剰に分泌されてホルモン量が多い場合はバセドウ病、逆に少ない場合は橋本病が考えられます。リウマチの場合も、リウマチ因子や抗CCP抗体を測定して診断します。甲状腺疾患の血液検査は一般的な健康診断には含まれておらず、公的医療保険の対象外で高額になるけれど、病気を知る重要な手掛かり。気になるときは迷わず検査を。

〔監修〕

福田 護 先生

聖マリアンナ医科大学附属研究所

プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック院長(乳腺外科)

「元気すぎる」が主な症状 20代の発症も多い バセドウ病

症状

とにかく元気に感じられる一方で、動悸や息切れ、のどの腫れ、生理不順などの症状が表れる。眼球が突出して顔つきが変わってくるのも特徴的な症状。

治療

薬物、手術、アイソトープ治療などで血液中の甲状腺ホルモンの量をコントロールする。適切な治療をすれば妊娠・出産には影響ない。

甲状腺を異常に刺激する抗体による自己免疫疾患で、甲状腺ホルモンが過剰に分泌され、新陳代謝が活発になりすぎる病気。初期のうちはむしろ体調が良く元気に感じられるが、過剰な新陳代謝は身体に負担となりさまざまな症状を引き起こすことに。患者の8割は女性で、中でも20〜30代の若い女性が多い。

30代〜40代の女性に多いがん

甲状腺がん

こうじょうせんがん

症状

のどの付近にしこりを感じるが、触っても特に痛みはない。進行すると首の腫れや声のかすれ、飲み込むときの違和感などを感じるように。

治療

基本はがん組織の切除。蝶のような形の片側にがんがある場合は、もう片方を残せる。内視鏡やロボットアームを使った、傷跡の残らない方法も。

甲状腺にできるがんで、患者は男性より女性の方がはるかに多い。日本人の場合は、乳頭がんと呼ばれる種類のものが全体の85%を占めている。がんの中では比較のおだやかで、非常にゆっくりと進行し遠隔転移することも少ないが、ある程度進行すると、ものを飲み込んだ時に引っ掛かりを感じたり、しこりを手で触って確認できるようになる。半年に一度くらいは触って腫れやしこりがないかセルフチェックを。

その他
女性に特に
多い病気

関節が痛み、動かせなくなる病気 早めの治療が効果的

リウマチ

症状

初期は身体がこわばり、動かしづらくなる。進行するにつれて、痛みや腫れも。最初は筋肉痛や関節を痛めたばかりかと思うケースもあるため、痛みが続くようなら病院へ。

治療

症状に合わせて、痛みを和らげる対症療法や薬物療法を行う。早期に対応すれば進行を食い止めることも十分可能。

全身の関節に炎症が起こり、激しい痛みとともに関節が動かせなくなり、やがては骨が破壊されてしまう病気。詳しい原因は不明だが、免疫に異常が起きて自分を攻撃してしまう自己免疫疾患のひとつと考えられている。

VOICE 「なんとなくだるい」が実は…

首の腫れで乳腺科に行ったが問題なく、内分泌科をすすめられた。そこで血液検査をしてバセドウ病がわかり、薬で治療をしている。とにかく疲れやすく、通勤電車に乗るだけで仕事ができなくなっていたが、甲状腺の病気なんて考えもしなかった。(40代・バセドウ病)

健康診断で甲状腺機能低下症と判明。常にだるく、のどの風邪を何度も引くなどの不調が長く続いていっていたけど、ずっと育児疲れだと思っていた。薬で治療をしたらだいぶ楽になった。(20代・甲状腺機能低下症)

